

### 第390回:「万歳」のつもりが...

第三阿房列車に乗って、内田百閒先生が長崎を訪問されたときのこと。

長崎に到着した先生と、随員のヒマラヤ山系氏は、昔から有名だと云う旗亭に乗り込み、例によってお酒を飲み、藝妓が歌を歌った。

端唄「春雨にしっぽり濡る鶯の」は、この家で出来た歌だそうで、箸袋にも、その文句が書いてあった。なにげなしに読んで見ると、次が「葉風ににほふ梅ヶ香や」となっており、ここに百閒先生が異を唱えた。

「梅の花が咲くころに、葉はまだ出ていない。葉風が起こるはずがないから、これは鶯の羽風の間違いだろう」と云って唄本を持ってこさせると、果たして「羽風」となっていた。

この一件で、藝妓の方が不思議がって、「なぜそんなつまらない間違いが気になるのでしょうか？」と云ったらしく、百閒先生は皮肉を込めて、「彼女は私どもが校正恐る可き暮らしをしている事を知らない」と、下手な洒落を交えて結んでおられる。

文章の手直しを頼まれたとき、誰にもこんな経験はあるだろう。人の書いたモノをチェックするとき、文章の巧拙や誤字脱字は気にならないが、「消防車が来たから火事になった」のように因果関係が逆転しているセンテンスや、専門用語が理解しないまま使われている一知半解の箇所を黙って見逃すわけにはいかない。しかし指摘されても、長崎の藝妓さんのような反応も多く、コミュニケーションとは難しいものだとつくづく思う、最近では住む世界が違うから仕方ないと半分諦めている。

この点、中国人は字句、語句、文章に敏感だ。文章イコール教養と云う伝統がいまでも残っていることが第一の理由。第二の理由は、一党独裁国家の中国では、人の書いた文章にイチャモンをつけ、権力闘争の火ぶたを切ることが企業でも、官庁でも日常茶飯事に行われているからだ。

たとえば、中国を十年の長きにわたって大混乱に陥れ、数千万人が犠牲になったといわれる文化大革命。この発端は上海の文匯報に発表された京劇戯曲「海瑞罷官」に対する評論記事だった。

毛沢東は、自分の政権基盤を揺るがすほどの大勢力となった新興勢力を「資本主義を目指す実権派」と断罪して一掃しようと企み、劉少奇、鄧小平、彭真たちと親しい関係にあった歴史学者の呉晗(北京市副市長、清華大教授)に目をつけた。毛沢東一派は、当時まだ無名だった上海のジャーナリスト姚文元に命じて呉晗の「海瑞罷官」は「社会主義とプロレタリア独裁に反対する危険思想だ」と云う主旨の批評文を書かせ、それを口実にして劉少奇たちを失脚させたのである。

むかしの総会屋だって、こんな非道い言いばかりはつけなかつたらう。

習近平主席の父親の習仲勲も、「反党小説『劉志丹』事件」というでっち上げで、毛沢東に失脚させられた苦い経験がある。

若くして革命半ばに斃れた劉志丹という英雄を称える小説が、党中央宣伝部の命令で故人の関係者たち

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

によって執筆されることになり、故人と縁の深かった当時副首相の習仲勲も協力して小説は完成したのだが、小説のなかに王明や高崗といった反党分子も登場していたことから、毛沢東にゴマをするバカが「発行には党中央の批准が必要である」と言い出した。

そして毛主席側近の康生が「小説の内容に危険思想が含まれている」と云いがかりをつけ、そのとぼっちりで、習仲勲と家族の習近平たちは16年もの長きにわたり辛酸を嘗めることになった。

こんなことが建国以来70年も続くものだから、“君子仰向けに、もとい危うきに近寄らず”、中国の指導者は身の危険を感じて論文や発言集を印刷しない。いつどこでイチャモンをつけられるか分からないから。

鄧小平や陳雲たちは、雲上人となり、もう誰からも批判されないようになって初めて浩瀚な論文等を発表するようになったのである。

2008年5月12日に四川省アバ・チベット族チャン族自治州汶川県で発生した大地震はいまだに犠牲者が8万人か9万人か判然としない未曾有の大災害となった。

全国民が悲しみにくれる5月27日、河南省の共産党機関紙・河南日報が論説を発表し、「いまこそ国民が力を合せ難局に立ち向かおう」と格調高く綴り、祖国万歳で締めようとした。

ところが、九仞の功を一簣に虧くと云うか、痛恨のダブルボギーというか、誤字が一か所発生してしまった。「羽風」をウツカリ「葉風」と間違えたようなものだが、間違えた個所が悪く、「祖国万歳！」を「祖国万死！」とやってしまったのだ。万歳 wansui をうっかり wansi と誤入力して、万死になったのだろう。

これを見た共産党が怒るまいことか、6月5日付け現地紙は「河南日報が過日“祖国万死”と書き間違えた事件に対し、関係部門は“嚴重なる政治的過ち”として取り調べを進めている」と報道している。

日本でこんなチョンボをしたら始末書か減俸処分くらいは覚悟する必要があるが、まさかクビにはならないだろう。ところが中国だと、寛大な処分でも停職、運が悪ければ牢屋だ。

長く中国で働いていると、羽風と葉風の違いが些細なことだと思えなくなるのである。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成29年6月28日

## 筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

## ご投資にあたっての注意事項

### 手数料等およびリスクについて

#### ① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

#### ② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

#### ③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

#### ④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

### ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号  
日本証券業協会 加入  
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040